

けんしゅうしましよ

7号
R1 9.24
文責 永井

研究発表会を終えて

9月13日(金)、ご来賓16名、教育関係者95名、保護者45名など、158名を迎え、第30回教育研究発表会を開催できました。当日に向けた授業づくりにとどまらず、会場設営、掲示物、放送、花の飾り、駐車場、印刷物、など、たくさんの力が集まり、無事に終えることができました。

全体講評より(学校教育指導室 西田健一氏)

1 道徳の研究と授業について

◇問題意識をもつようにする導入の工夫

- ・道徳科に限らず、課題提示までに、子供たちの「学びたい」「どうしてだろう」「知りたい」という意欲を高めることが大切である。
- ・導入時の学びへの意欲の高まりが、「主体的・対話的で深い学び」の実現や授業での集中力の持続に必要である。

◇自我関与させる工夫

- ・「特別の教科 道徳」では、自分事として考える力、学んだことを実生活に生かせる力の育成が求められている。
- ・全教職員の共通理解のもと、ある程度の授業のスタイルを統一して授業をすることは、今求められている力を身に付ける上で、有効な手段である。
- ・「総合単元ユニット」の考え方、教室内「道徳コーナー」、「道徳ノート」の活用は大変評価できる。
- ・帯広小学校が取り組んでいる、「基礎基本の定着」や「家庭・地域との連携」を含めた全教育活動を通じて行われている道徳教育は、全教育活動の要である。

2 今後に向けて

◇さらなる発展にむけて

- ・学校長の経営の重点を受けた、内容項目の複数時間の扱いやカリキュラムマネジメントを受けた年間指導計画の充実に期待する。
- ・子供たちのがんばりや成長を見取るには、教師と児童の人間的な触れ合いによる共感的な理解が必要である。積極的な見取りや評価の蓄積について共通理解を図るようにする。

3 特別支援教育の研究について

- ・全授業で、個別の児童の実態が指導案に明記されていて、個に応じた丁寧な指導が進められていた。
- ・情緒学級では、自立活動で学習する内容と道徳性とのかかわりが記載されていて、研究を意識した展開がされていた。
- ・知的学級では、「のぞみバザール」の実践で得た成果と課題を検証し、決められた場面以外で自分の気持ちを表現できるような授業が展開されていた。
- ・ことばの教室では、リラックスした雰囲気での授業を拝見できた。
- ・子供の将来を見すえ、「自立と社会参加」が重要なテーマになる。
そこで、「学力」や「体力」など、一人一人の生きる力を伸ばすため、「達成感」をもち、「自己肯定感」を高めることができる学習がつけられるよう、きめ細やかな指導をおねがいしたい。

